



第4回「北海道高齢者保健福祉施策検討協議会」 における次期計画に係る意見の対応状況について

令和6年2月7日(水)

北海道保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課

HOKKAIDO DEPARTMENT OF HEALTH AND WELFARE.

意見の対応状況について

意見の内容と道の考え方

委員名	担当課	計画内容	意見等	意見等に対する対応
坂井委員	高齢者保健福祉課 (地域支援係)	○通いの場に関する目標 (KPI) 通いの場への参加率(月1回以上) 3.94% (R3) → 5.37%以上 (R8)	○通いの場について ・ 高齢者の介護予防を進める上で、通いの場の活動回数や内容を充実させていくことが重要であり、週に1回くらいの頻度で活動している通いの場を増加させていくことが必要ではないか。	・ 自立支援、介護予防・重度化防止に当たっては、運動機能や認知機能等の低下を防ぎ、地域とのつながりを維持することが重要と考えております。 ・ そのため、地域の実情や特色を活かした多様な「通いの場」の取組やアクティブシニアの活躍支援、老人クラブへの参加の促進等を推進してまいります。
小倉委員	高齢者保健福祉課 (地域支援係)	(アウトカム指標) 介護予防に資する住民主体の通いの場がある市町村数 R4 : 159市町村 → R8 : 全市町村	○通いの場について ・ 北海道は雪もあって、冬場の外出の難しさもあるので、高齢者が通いの場に参加しやすくなるような道独自の施策が必要ではないか。	・ 感染症や冬期の自然状況に左右されない「通いの場」を実現するため、「高齢者通いの場 I C T 活用推進モデル事業」を実施するとともに、これらの事業成果等について周知を行うため、フォーラム等を開催してきたところです。 ・ 今後も、感染リスクや環境に左右されない地域の実情を踏まえた取組を推進してまいります。
岩田委員	高齢者保健福祉課 (地域支援係)	○生活支援コーディネーターに関する目標 (KPI) 生活支援コーディネーターの活動の進捗を定期的に確認し、支援内容の改善・見直しを行っている市町村数 127市町村(R5)→142市町村以上(R8) (アウトプット目標) 生活支援コーディネーター養成研修会の開催受講者数300人/年	○生活支援コーディネーター養成について ・ 生活支援コーディネーターやアクティブシニアなど高齢者の生活を支える人が「自立を支援する」という視点をもって活動できるよう養成してほしい。	・ 介護予防の取組に当たっては、高齢の方々の有する能力に応じ、自立を支援することが重要と考えております。 ・ 生活支援コーディネーターの養成や、アクティブシニアの活躍支援セミナーの開催に当たっては、そのような視点を持つことの重要性を踏まえて実施してまいります。